

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、和合圏域） 第4回会議 議事録

開催日時	令和5年2月20日（月）9時30分から11時00分まで
参加者	委員：12人 事業所：7人 事務局：11人
場所	和合せいれいの里 研修センター
内容	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 住吉・和合地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3 協議内容</p> <p>① 令和4年度協議体会議の振り返り 生活支援コーディネーターより、本年度の協議体で話し合ってきた内容について報告した。</p> <p>② 地域の高齢者への友愛訪問について 富塚地区社協副会長より、富塚地区に住んでいる80歳以上の高齢者400世帯に友愛訪問を行った内容について話していただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在心掛けていること、日常生活の中で不便や負担に感じていること、日常での周囲とのかかわりについて聞き取りを行った。 ・家事・ゴミ出しに困っていると回答したのは18件と少なかった。 ・困っていることについての項目は、買い物：39件、通院：24件、特に困っていることはない：174件 ・日頃から健康に留意、趣味を楽しんでいる世帯は多い。 <p>③ 介護保険制度について 地域包括支援センター和合より介護保険制度について、スライドを用いて説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度は3年ごとに制度の見直しがされており、次の見直しが令和6年度。 ・高齢者の人口増加、生産者の人口減少に伴い社会を支える担い手が減っている。 ・現在の総合事業対象者（要支援1・2）の利用者に加え、要介護1～2の認定者も加えるかの議論があったが、令和6年度の改正時には、現行の総合事業を維持していくことが見込まれる。 ・高齢化により、人材不足が慢性的に続いている。特に訪問介護の分野は平均就労年齢が約50代後半となっており、若年層が枯渇しており、事業所の継続運営が厳しくなっている。 ・今後の介護保険制度改正時には、身体介護等、専門職が実施する援助は今後もサービスとして残っていくと思われるが、日常生活への支援（ゴミ出し、買い物等の家事等）については総合事業から地域住民活動へ移行されていくことが検討されると考えられる。

4 グループワーク

【 住吉・和合 】

- ・家事支援のゴミ出しは、担い手が少なく困っている。担い手を増やすべき。
 - ・シニアクラブ、約800人の対象者の方がいるうち、何らかの地域活動に関わりのある人が300人。残りの500人の状況が不明。何か困りごとがあるのか 不安はあるのか 何かしらの情報があると良いのでは。
 - ・ゴミ出し作業で大変なのは、出すことだけではなく集める作業が手間。
 - ・地域とは何か。ほとんどが社会貢献。
- 期待がふくらむのは問題。相応の対価は必要では。
- ・高齢者が、自分の手押し車にゴミを乗せやすいように工夫してゴミ出しをしている姿を見かけた。荷車の工夫で、ゴミ出しができるようになることもあるのでは。
 - ・介護保険に結びつかない人がいる・・・新たな課題

〈まとめ〉

○介護事業所と地域（家事支援関係者）が交流する機会

- ・事業所が抱えるケースについて家事支援で担えるものがあるか、個別の案件の情報共有をする。
- ・顔の見える関係づくり、気軽に連携できるきっかけづくりとする。

○健康づくり

- ・住吉、和合には10のロコトレ団体がある。ロコトレなどの参加者にヒアリングする機会などを今後設けては。
- ・介護負担軽減⇒介護を誰かにゆだねる時、介護者の負担を軽減するため、健康づくりも進めながら体重をおさえる取り組みなどがあってもいい。
- ・介護予防⇒健康づくりも含めて新しいものというよりも既存の活動を広げる

【 富 塚 】

第2回の会議でゴミ出し支援の提案として「○○×ゴミ出し」について意見を出し合い、ウォーキングやラジオ体操をしながら、ゴミ出し支援も行ってはどうかという案があがった。そこで、実際に富塚の地区で何らかのゴミ出し支援を行うための意見交換を行った。

- ・話し合っているだけでは何も始まらない。できるものをまずはやってみることが大事。モデル地区を決めてやってみてはどうか。

○モデル地区について

- ・坂道が多いところ、エレベーターのないマンション等の地域はゴミ出しが大変。
- ・ゴミ出しに困るという相談の多いエリアとして、坂の多い青葉台団地や、弥生団地、長坂団地、パークタウンのエレベーターのない棟がある。青葉台団地は空き家率も高くなっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・青葉台団地は富塚西自治会、長坂団地は富塚北自治会 →自治会長の委員より、自治会長が集まる会議でゴミ出し支援のモデル地区の話をしてくださることになった。 ○ゴミ出しの時間 <ul style="list-style-type: none"> ・8時半までにゴミ出しをしなければならないという時間的制限が支援の課題となる。 ・業者が順番に集積所にまわっているため、お昼前くらいまでゴミが回収されていないような場所もある。 ・障がい者の作業所では、利用者は9時くらいに作業所に来所している。8時半までとなると、職員も出勤などしている時間であり難しい。 ・支援の担い手→8時半という時間が1時間でも遅くなれば担い手の幅が広がる可能性。ゴミの回収時間について、行政と調整としてそのエリアの回収時間を遅くしてもらうのはどうか。 →業者の回収ルートが変わるなどして、そのエリアのゴミの回収時間が変わったりすることがある。基本的には8時半までの支援というのは崩さないほうが良いのでは。 ○家事支援について <ul style="list-style-type: none"> ・富塚の家事支援で行うゴミ出しは、1回300円と高い。ほかの地区では1回100円のところが多い。既存の支援を使いやすくすることが大事では。 →地区社協としても、安くならないか動いてはいる。なかなか変えられない。 〈まとめ〉 <ul style="list-style-type: none"> ・「ラジオ体操×ゴミ出し支援」についてすすめていく。 まずは、ラジオ体操をして自分の健康づくりをすることを目的にグループを結成、その先にゴミ出し支援を考えていく。 →モデル地区の選定、ラジオ体操の実施場所、担い手の確保、ポイント制導入など具体的な形を来年度に話し合っていく。 ・同時進行で既存の家事支援を使いやすくする取り組みを行う。 5 連絡事項 6 閉会
<p>今後の見通し等</p>	<p>今回会議では、包括より介護保険制度の話をしてもらい、改正後に今までヘルパーがやってきたゴミ出しなどの生活支援の部分を地域の助け合いで補っていかなければならない可能性があることを知り、危機感を感じるきっかけになったと考える。今は介護保険があるから何とかなっているゴミ出しも、何年か先、介護保険改正後には地域の助け合いでどうにかしなければならない。今のうちにそのシステムを構築していく必要があることを視野に入れて地域でのゴミ出し支援を考えていきたい。</p>